

問一 傍線部1「小さな罪悪感」とあるが、これはどういうものか。具体的に説明せよ。

--

問二 傍線部2「ただこうかしら、と相談するように言ってから、老女に向かって訊ねた」とあるが、ここでの「若い母親」についての説明として適当でないものを、次の中から一つ選

び、記号で答えよ。

イ 先ほどまで躊躇していた自分の態度を払拭するきっかけを得ようとしている。

ロ 状況を見守っていた娘に声をかけることで安心させようとしている。

ハ 唐突な老女の申し出を受けるべきかどうか娘に決めてもらおうとしている。

ニ できるだけ好意的かつ自然に老女の申し出を受け入れようとしている。

--

問三 傍線部3「自分は、席を譲るべき人が眼の前に立っているにもかかわらず、気づかぬふ

りをして狸寝入りをするような男と、ほとんど同じことをしている」とあるが、「彼」は、自分がどうしていることをしているか。具体的に説明せよ。

--

第一講

隨筆『徒然草』

学習目標

- 隨筆中に紹介された逸話と、作者の考えが述べられた箇所を区別して読解できる。
- 逸話中に登場する人物の心情変化を読解し、適切に説明できる。
- 用言(動詞・形容詞・形容動詞)が確実に理解できているかを確認する。

【練習問題】

次の文章を読んで、あとの問に答えよ。

雅房大納言は、才かしくよき人にて、大将にもなさはやと思しけるころ、院の近習なる人、「ただ今、あさましきことを見侍りつ」と申されければ、「何ごとぞ」と問はせ給ひけるに、「雅房卿、鷹に飼はんとて、生きたる犬の足を斬り侍りつるを、中墻の穴より見侍りつ」と申されけるに、うとましく憎く思しめして、日ごろの御気色もたがひ、昇進もし給はざりけり。さばかりの人、鷹を持たれたりけるは思はずなれど、犬の足は跡なしことなり。虚言は不便なりども、かかるところを聞かせ給ひて、憎ませ給ひける君の御心はいと尊きことなり。

おほかた、生けるものを殺し、傷め、闘はしめて、遊び楽しまん人は、畜生残害の類なり。よろづの鳥獸、小さき虫までも、心をとめてありさまを見るに、子を思ひ、親をなつか

〔重要語句〕

- 才
- かしくし
- よき人
- なす
- ばや
- あさまし
- 飼ふ
- 御気色
- たがふ
- さばかり
- 思はずなり
- 虚言
- 不便なり
- かかる
- いと
- おほかた
- よろづ
- なつかし

問二 A・B・Cの語を文中に適合する形に活用させよ。

A			
	B		
		C	

問三 傍線部1「才」・2「なさばや」・3「御気色」の語句の意味を記せ。

1			
	2		
		3	

問四 傍線部5「いかでかいたまはしからざらん」を現代語訳せよ。

--

問五 傍線部4「君の御心」とあるが、どのような「心」か。本文に即して具体的に説明せよ。

--